

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月一回理念の読み合わせを行い、確認しあっている。	ホームの理念が玄関に大きな字で掲げられている。定例会で理念を読み合わせ、唱和もし再確認している。勤続年数の長い職員が多く、理念を日々の行動で具体化している。来訪者には特別説明をしていないが玄関の理念を読んで行事の時などに「ああ、これが理念なんだね」という声が自然に聞こえており、地域の方にも知っていただけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所のお茶飲み会を毎月開催して交流を図っている。	毎月27日に地域の方との「お茶のみ会」が開催されている。10人位のご近所の方や少し離れた地域の方もロコミで参加をしている。ご近所から野菜などの差し入れがたくさんある。踊りや歌、草取り等のボランティアの来訪もあり、高校生が自分たちで育てた苗を持参し花壇づくりや窓拭きもしてくれている。今年は大学生の実習の受け入れを1週間行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村の人々、家族、ボランティアの交流会の中で認知症の人の理解や支援の方法をわかりあえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症のグループホームをしってもらったり、サービスの実際を見てもらい、意見をもっている。	利用者、家族、組長、区長、民生委員、消防団代表、駐在署員、村役場職員で構成され2カ月に1回開催している。現況報告と委員の方からの質問や提案を受けている。ゴミの集積場の囲いが狭いことや駐車場が狭いことなどを指摘され改善につなげ、駐車場がホームの裏に拡大されたので心置きなく車での訪問が出来るようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	村は、協力的に、相談に乗ってくれる。	役場へ出向き相談などを行っている。冬場、利用者の避難経路の確保にホーム脇の大きな通りの除雪を役場をお願いしたところスピーディに対応していただけるようになった。介護保険の更新申請代行や調査を家族の了承の上ホームで行い、情報の提供もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、各部屋の施錠は全くしていない。ベッド柵についても四点柵はしていない。	日中は玄関の鍵はしていない。センサーは取り付けてあるが現在は全く使用していない。ベッドの柵も布団がずり落ちないためにしたり、利用者の寝起きの手段として使用している。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底を計ろうと研修会に出席し、復命する型で職員全員で学習しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や、成年後見制度についての研修に参加するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書で理解していただき納得するよにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望をお聞きする機会は設けている。運営に反映するよう努めている。	家族会がお茶のみ会とは別に毎月開催されている。食事をしながら利用者と家族、家族同士、家族と職員の意思疎通する場となり家族から要望などを聞くことが出来ている。家族からの話を聞き、「あっ、少しコミュニケーションが足りなかったなあ」と反省し次につなげている。「ふきんと便り」が発行され利用者の日々のくらしぶりが家族に知らされている。玄関脇に「御意見箱」も設置されているが利用は全くなく、家族は口頭で要望等を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや職員会は、運営に関する職員の意見を聞く大切な機会と考えている。	毎月1回の職員会は給与支給日に開かれている。ケアプランの検討、業務連絡、研修などが行われている。定例会での研修は外部研修参加者が報告したり、管理者による介護全般の話をマニュアルや資料に沿って行っている。職員間で利用者に対する対応について互いに教えあう姿勢もあり、働きやすい環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場を第一に考え、あたたかな人間関係を守っていくよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の勤務が勉強の機会と考え精進している。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会を計画し、実施している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	してほしいこと、困っていることを尋ねて出来る限り希望に沿って安心していただくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪していただくことを、大いに喜び、困り事、悩み事を良くお聞きし、心配事が少しでも軽くなるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	枝豆もぎやカラむき、新聞紙での袋作り、食器拭きなどできることをやっていたいでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのつながりが一番という思いで、交流の場である家族会を毎月一回行い、会食会や遠足を共にし、様子を見ていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問を積極的に受け入れ、訪問者も多い。 親族との外泊も時々ある。	村内からの利用者が半数おり、高齢の友人が手押し車で訪問することがある。冬は雪が降り、外出などが難しいので暖かい時期に家族と温泉へ旅行をしたり、お盆のお墓参りに家族と出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	筋力アップや歩行を一緒にする中でお互いが刺激あい「休もうと思ったが」と頑張っている。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談や支援に努めていると思っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞いたり日常生活の中で本人の意向をみつける努力をしている。	利用者全員が言葉や仕草、表情で意向を表わすことができ、職員も選択肢を多く示し、確認のために話しかけ「はい、いいえ」が伝わり易くしている。寝たきりの方にも職員は常に話しかけ、利用者の思いをくみ取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に聞かれなかった事も家族や、訪問される親戚、知人等からもお聞きし理解を深めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録やミーティングで一人一人の状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや職員会又、家族の訪問時によく話をお聞きし現状に沿った計画をしている。	計画作成担当者が「ケアカンファレンス会議資料」を作成し、職員はその資料をもとにプランについて評価や気づきを発表し、対応の仕方を話し合っている。計画作成担当者が話し合いの結果をもとに計画を修正、再作成している。家族へは計画作成担当者から利用者の近況報告を書き添え、郵送等で介護計画書を送り、意見・要望等を伺っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、ミーティングなど情報を共有している。 又、緊急を要するものは紙に書いて貼り出しておく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天候の良い日は散歩や庭でのお茶、家族や隣人の訪問には一緒にお茶やお話ゲームなどをしていただく。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所、ボランティアの協力をいただき元気にくらしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院介助や薬をとりに行くことなど、家族の希望を聞いて支援している。	大半の利用者が協力医へ変更されている。インフルエンザなどの予防接種は協力医へ出向き行われている。訪問調査当日、寝たきりの方への往診があり、その時に予防接種も行うことが話されていた。受診の付き添いは原則として家族にお願いしているが、家族の都合で職員が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一ヶ月に数回訪れる看護職に、利用者の情報を伝え適切な介護に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換に努め入退院は、スムーズに処置していただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、主治医と話し合いながら、方針を共有している。	ホームでは看取りの対応について、家族、医師、職員との話し合いで行うとしている。開設より数人の方の看取りが行われている。家族が泊まり込んだり、日中付き添いをしたりしながら看取りが行われたという。昨年、終末期を協力医の訪問診察対応で過ごされていた方の容態が急変し、救急車で搬送中に亡くなった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員による救急訓練を定期的に行ったり看護師による応急手当を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回避難訓練・通報訓練を行って地震や火災等の災害時の安全避難を心がけている。 地域の皆さんとの協力を仰いでいる。	年2回防災訓練が行われている。消防署へ計画書を提出し、消防署員と区長が参加し昼夜想定で行われた。毎月1回小規模な避難訓練と通報訓練を利用者中心に行っている。火災報知機、煙探知機、通報装置、避難誘導灯、消火器等が設置されている。利用者の防空頭巾も用意されているが効果的な使用方法を模索中とのことであった。居間には緊急の連絡網が掲示してある。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉とあいさつは、職員の最も大切なものとして学習し注意しあっている。	朝の挨拶や感謝の気持ちの「ありがとう」の一言は、相手に通じるように話すことを心掛けている。利用者に作業をして頂いたときは必ず感謝の気持ちを伝え、次につながるようにすることが大切と考えている。利用者への呼びかけは名前や苗字にさんづけで敬意を込めて行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現の場を作りだす言葉かけを大切にし、よく話を聞くことに心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候をまず第一に考えた中で、ひとりの希望に沿って支援し、体力・気力の増進に努める。 散歩や筋力アップはその例。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ある服の中から着たい物を聞いて好みの服装を見守っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	枝豆もぎや、のカラむき、野菜の下ごしらえなど手伝ってもらったり、食器ふきなどもやっていたいしている。	現在胃ろうの方がいるが、大半の方は職員の手作りの料理を刻みなどを加えながら摂っている。美味しくて全部食べてしまうのか、家族から「太ってきたので、スプーン一杯位少なめに」との注文もある。利用者の誕生日には全員が近所のケーキ屋さんに行き、各々の好きなケーキを選びその店でお祝いをすることもある。行事に出かけ外食する時にはホームでは見られないような表情で食べ、ホームの日常とは違った場面を見ることがあるという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夫々の人にあわせて量の調整を行っている (夏の水分補給、旬の食材、野菜の摂取等、行事食)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。ポリデントにつけるのは週に三回。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ずつの排泄のパターンを把握し、そのパターンに添った介助をしている。	自立している方が半数以上いるが、トイレでの着衣の上げ下げの手伝いをしている。「ありがとう」とか「すまないね」の言葉が聞かれるという。居室にポータブルを置き使用したり、安心のために置いている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活の中で、主治医の処方する下剤を服用している。 排泄のパターンの記録もとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏 7月、8月はシャワー浴、9月～6月までは入浴を実施している。 一人一人の希望は優先ではないが、清潔の保持に努めている。	3日に1回入浴をしている。夏場(7月・8月)はシャワー浴を主体とし、状況にあわせお風呂での入浴を取り入れている。入浴時間は午後の4時ごろからとし、ゆっくりと入浴している。日帰り温泉へ利用者と家族、職員で一緒に出掛け楽しむこともある。入浴を拒む方に「温泉だから入りましょう」との言葉掛けをすると「温泉なら」と入る方もいるという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活の中で、安眠や休息がとれるよう環境を整え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法を理解し、飲み忘れ、飲み落としがないよう努め、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることは決めてやってもらっている。(机ふき、紙袋作り、布切り等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜、バラ、菊花展の花見や、温泉、善光寺参り、カヤの平での音楽会などに出かけている。 ドライブも実施。(外出時は、ボランティアや家族、ご近所の皆さんの協力もいただいている)	毎日の筋力トレーニングに加え、天気の良い日は外に出て日光を浴びながら散歩することに力を入れている。職員が車椅子を押したりしながら2、3名ずつで散歩している。家族会を兼ねてお花見や善光寺参り、菜の花の名所、温泉などへ出かけている。天気を見たり、ホームの日課に余裕のある時を選び、少人数だからこそ出来る外出を臨機応変に行っている。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持しないようにして生活をしている。 お金についての興味はお話の中だけで聞いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はよくつなげている。手紙は、年賀状と暑中見舞いのみ実施。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に気をつけ環境を整えることに気をつけている。四季折々の生花など職員一丸となって努力している。	玄関を入ると立派な仏壇があり、居間に入ると縁側には利用者が皮を剥いた干し柿がつるしてあった。畳の部屋で椅子やソファに座りながらお茶を飲んでいる光景は普通の家庭の感じがした。利用者の今までの生活の延長線上の環境が自然に整えられている。ペットのウサギが廊下で飼育され、利用者の癒しとなっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間や廊下の長椅子で外を見ながら談笑する姿がよくみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、旅行の写真など思い出につながるものを飾っている。 又、家族とのつながりを持ったもの(孫の誕生等)	居室にはベッドが備え付けられている。ホームの持ち物である筆筒が居室にあたり、利用者の家庭からの椅子等の持ち込みがされている。記念の写真が飾られたり、家族が「母のお気に入りのカレンダーだから」と居室に飾ったりしている。家族の写真も利用者が見やすい位置に置かれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掲示された行事の時の写真を見て話しを交わす場面がみられる。 雑誌、新聞も自由に読んでいる。		